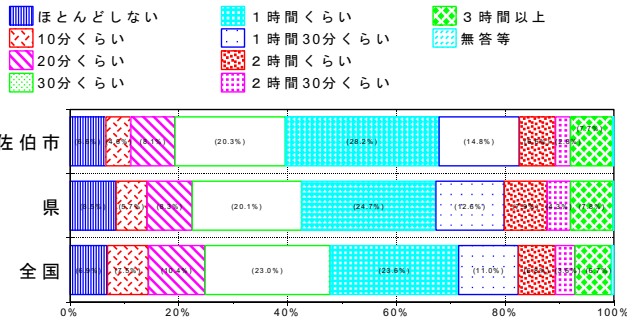


生活実態について（平成24年度各種調査における質問紙より）

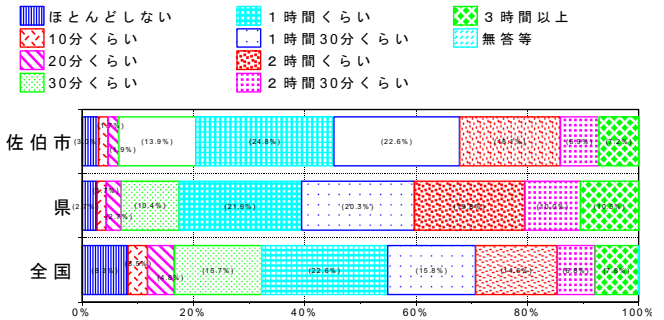
【大分県基礎・基本の定着状況調査児童生徒質問紙（小5・中2）の結果】（一部抜粋）

Q あなたは、この一か月、学校の授業時間以外に、一日どれくらい勉強しましたか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に見てもらっている時間もいれます。）
（学校の授業がある月曜日から金曜日について）

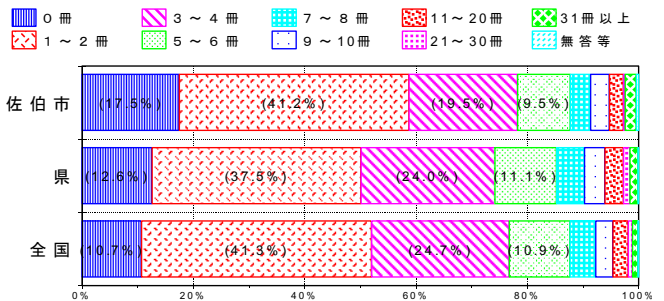
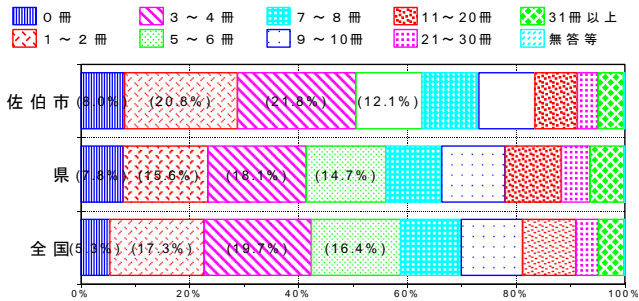
小学校5年生



中学校2年生

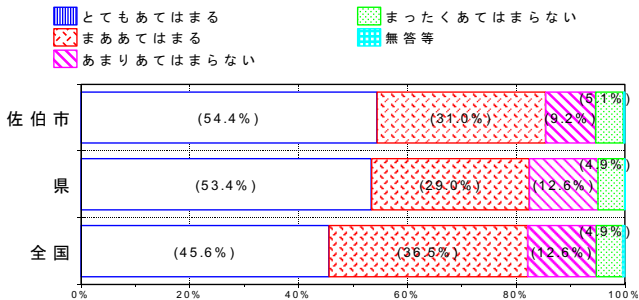


Q あなたは、この一か月の間に、本を何冊くらい読みましたか。
（教科書や参考書、マンガはのぞきます）

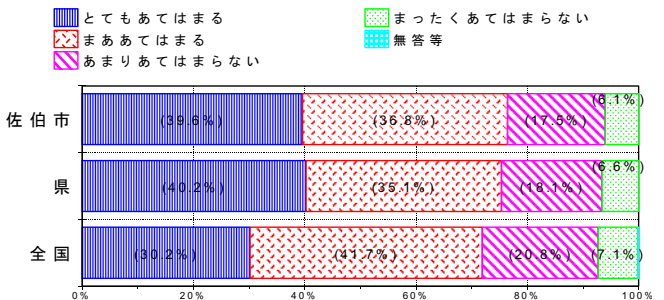


Q 学校での出来事を、家の人に話している。

小学校5年生



中学校2年生

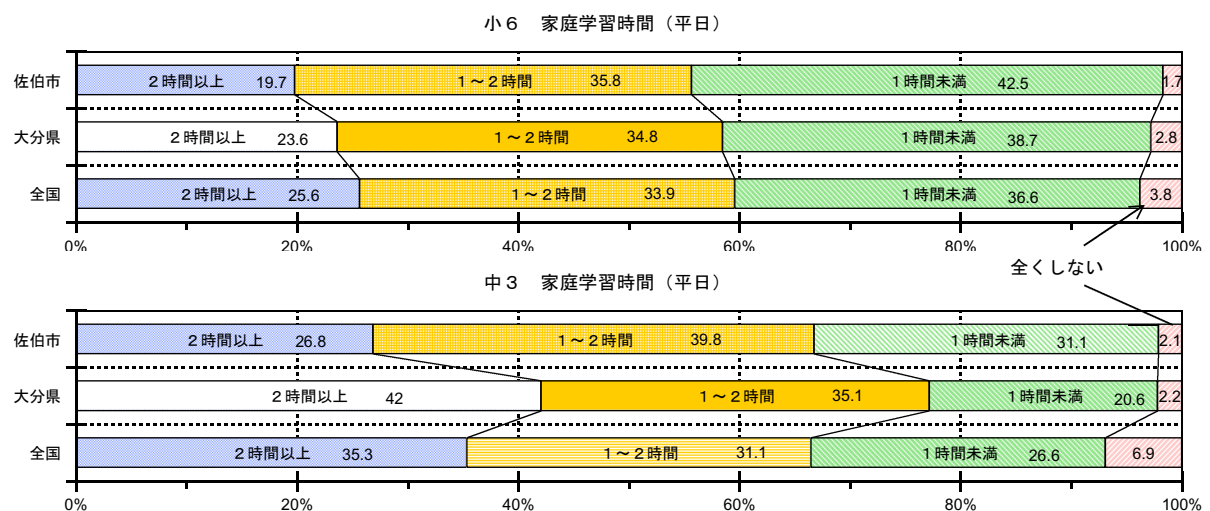


- 1時間以上の学習時間の割合を見ると、小学校5年生の平日の家庭学習時間は、6割程度となり、県・全国平均を上回りました。中学校2年生については、県平均を下回ったものの、8割程度となり、全国の平均を上回っています。今後も家庭学習の時間の充実に向け、質的な向上も視野に入れた、家庭・学校間の連携がより重要になってくると思われます。
- 一ヶ月間の読書については、小学校5年生で5冊以上読む児童は県や全国の平均を大きく下回っています。また、中学校2年生で3冊以上読む生徒も県や全国の平均を大きく下回っています。「0冊」か「1～2冊」の児童生徒が多いことがわかります。文字を早く読む、文意を読み取る、他の人の考えを知る、想像力を伸ばす等、読書にはさまざまな効果が期待されます。今後は、家庭との連携の下、読書習慣をつける取組がより重要になってくると思われます。
- 学校での出来事を家の人と話しているかどうかについては、小学校5年生については肯定的な回答の割合が国・県を少し上回りました。中学校2年生についても、肯定的な回答が国・県の割合を少し上回っているといえます。家庭との結びつきがしっかりとしていることがうかがえます。

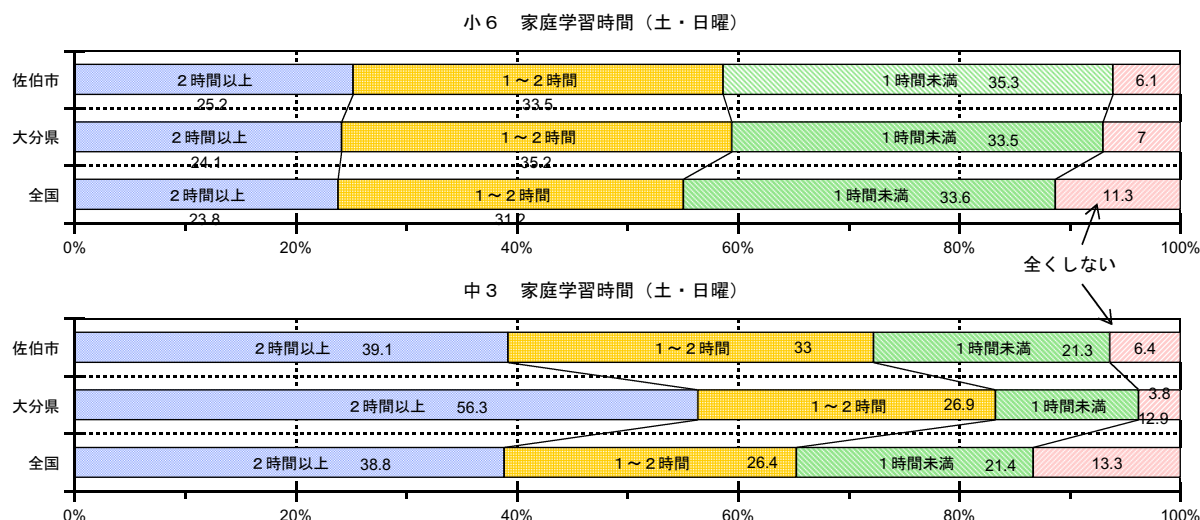
【全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙（小6・中3）の結果】（抽出校によるデータ一部抜粋）

【学習状況調査（児童生徒質問紙の回答）の結果】（一部抜粋）

○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



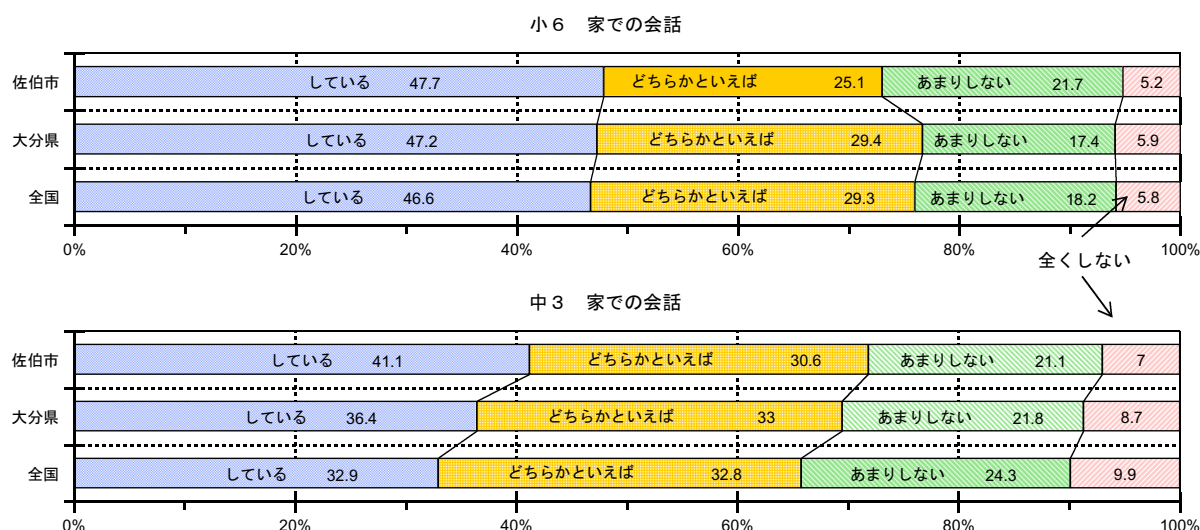
○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



○小学校6年生の家庭学習時間は平日・休日とも、全国・県平均に比べ1時間以上の学習時間の割合が低い状況にあります。また、平日の1時間未満の学習時間の割合が全国平均と比べ7ポイント程（平日）多く、家庭での学習量や学習習慣に課題があることがうかがえます。

○中学校3年生の家庭学習時間も平日・休日とも、全国・県平均に比べ1時間以上の学習時間の割合が低い状況にあり、特に2時間以上の学習時間の割合は県平均と比べ、平日で約15ポイント、休日では約16ポイント低い結果となっており、家庭での学習量や学習習慣に課題があることがうかがえます。

○家の人と学校での出来事について話をしていますか



○小学校6年生と中学校3年生の70%前後の児童生徒が家庭での会話について肯定的な回答をしています。「どちらかといえば」を含めた肯定的な回答が、小学校では全国・県平均に比べ下回る数値となりましたが、中学校では全国・県平均を上回っています。

【市評価規準診断テスト（小5～中3）は一月に実施予定です】